

平成18年度NAIST電子図書館学講座

**事例報告**  
**「本学の電子図書館業務について」**

平成18年11月22日

NAIST 奈良先端科学技術大学院大学 教育・研究支援部 学術情報課  
情報サービス・電子図書館係 井上敬宏

事例報告「本学の電子図書館業務について」

- 著作権処理の基本方針

電子図書館構築にあたっては、創設当初より**著作権法第63条「著作物の利用の許諾」**に基づき、電子化する雑誌や図書等の個々の著作権者から利用の許諾を得て電子化を行っている。(著作権保護期間切れのものはない)

(著作物の利用の許諾)  
第六十三条 著作権者は、他人に対し、その著作物の利用を許諾することができる。  
2 前項の許諾を得た者は、その許諾に係る利用方法及び条件の範囲内において、その許諾に係る著作物を利用することができる。  
3 第一項の許諾に係る著作物を利用する権利は、著作権者の承諾を得ない限り、譲渡することができない。  
4 著作物の放送又は有線放送についての第一項の許諾は、契約に別段の定めがない限り、当該著作物の録音又は録画の許諾を含まないものとする。  
5 著作物の送信可能化について第一項の許諾を得た者が、その許諾に係る利用方法及び条件(送信可能化の回数又は送信可能化に用いる自動公衆送信装置に係るものを除く。)の範囲内において反復して又は他の自動公衆送信装置を用いて行う当該著作物の送信可能化については、第二十三条第一項の規定は、適用しない。

<http://library.naist.jp/>

事例報告「本学の電子図書館業務について」

- 著作権処理の基本方針

**電子図書館にかかわる著作権**

**著作物をデジタル化し、ハードディスク等の装置に蓄積する**  
「複製権」(第21条)  
著作権者は、その著作物を複製する権利を専有する。

イメージ情報ではなく、文字(テキスト)情報として著作物をデジタル化する場合には、完全な形でデジタル化が難しいという問題(OCRの識字率)がある。

「同一性保持権」(第20条)  
著作権者は、その著作物及びその題号の同一性を保持する権利を有し、その意に反してこれらの変更、切除その他の改変を受けないものとする。

<http://library.naist.jp/>

事例報告「本学の電子図書館業務について」

- 著作権処理の基本方針

**電子図書館にかかわる著作権**

**蓄積した情報をネットワークを經由して提供する**  
「公衆送信権(送信可能化)」(第23条)  
著作権者は、その著作物について、公衆送信(自動公衆送信の場合にあつては、送信可能化を含む。)を行う権利を専有する。  
(ただし、プログラムの著作物以外は、同一構内における送信の場合は、公衆送信に該当しない(第2条第1項第7号の2))

**蓄積した情報をプリンタで印刷する**  
…「複製権」(第21条)



<http://library.naist.jp/>

事例報告「本学の電子図書館業務について」

- 著作権処理の基本方針

許諾を得るにあたっては、利用方法や利用の範囲等許諾を得たい内容や利用の条件を明確にして著作権者に説明した上で、できる限り承諾書や協定書といった文書の形で許諾を得ることとしている。

承諾書、協定書の様式 → 「NAIST電子図書館」→2005、155-163p 掲載

- 雑誌・図書などのデータベース化についてお願い
- 著作物利用許諾協定書
- 承諾書(図書、雑誌、講演・講義)

ビデオ編集実習で発表された方には後程、承諾書を

<http://library.naist.jp/>

事例報告「本学の電子図書館業務について」

- 著作権処理の基本方針

**承諾書や協定書等に明記している主な許諾内容及び条件**

- (1)資料の内容をデジタル化してハードディスク、磁気テープ等に蓄積し、データベースを作成すること。
- (2)資料から検索情報(書誌情報、目次情報、全文検索情報)を作成し、データベースに蓄積すること。
- (3)データベースを検索し、本文情報の閲覧及び印刷、または映像情報の視聴を行うこと。
- (4)本文情報の閲覧・印刷または映像情報の視聴を、学内利用者に限定、あるいは学外利用者にも公開すること。

<http://library.naist.jp/>

事例報告「本学の電子図書館業務について」

- これまでの取り組み: 許諾交渉体制の整備

平成6年度～

- (1)著作権許諾についての基本方針や諸問題を検討するため、附属図書館運営委員会の下に著作権専門部会を設置。
- (2)許諾交渉の際の基礎となる依頼文書の様式を作成。
- (3)著作権者と合意に達した際に取り交わす協定書(許諾内容及び条件等について詳細に記述したもの)及びその簡略版である承諾書の様式を作成。

<http://library.naist.jp/>

事例報告「本学の電子図書館業務について」

- これまでの取り組み: 許諾交渉体制の整備

平成8年度～

- (4)著作権料が予算化され、有償での許諾交渉が可能となる。
- (5)教職員を東京等に派遣し、著作権者と直接面談による交渉を実施。
- (6)学内生産物である修士・博士論文、テクニカルレポート等の電子化について、承諾書の様式、取扱方法等を決定。
- (7)著作権法及び著作権許諾条件遵守のため、学内利用者に電子化資料利用にあたっての誓約書の提出を義務づける。

<http://library.naist.jp/>

事例報告「本学の電子図書館業務について」

- これまでの取り組み: 許諾交渉体制の整備

平成11年度～

- (8)本学で行われる講演・講義内容の映像デジタル化及びデータベース化について、承諾書の様式、取扱方法等を決定。
- (9)電子化資料の充実・拡大を図るため、著作権許諾とデータベース構築を専門に担当する専門職員を配置。

平成13年度～

- (10)本学教員が研究代表者となっている科学研究費補助金研究成果報告書の電子化について、承諾書・委任状の様式、取扱方法等を決定。

<http://library.naist.jp/>

事例報告「本学の電子図書館業務について」

- これまでの取り組み: **昨年度までの活動**

- (1)当初、本学教員の協力を得て、教員が関係する学協会や企業等を中心に、学協会誌や企業誌について、無償での許諾を基本として交渉を進めた。
- (2)著作権料が予算化されたことにより、平成8年度以降、必要な場合には、相応の許諾料を支払う方針に転換。
- (3)平成10年度以降は、学協会誌については、著作権集中処理機関である学術著作権協会を通じて、また平成11年度以降、商業誌や図書は、国内の商業出版社や大学出版会を中心に、いずれも有償での許諾交渉を進めた。

<http://library.naist.jp/>

事例報告「本学の電子図書館業務について」

- これまでの取り組み: **昨年度までの活動**

雑誌(227タイトル:230万頁)

- ・電子化料(1頁につき10円×電子化した頁数)  
+ 複写料(1頁アクセスにつき5円×アクセス頁数)
- ・1冊につき15,000円～20,000円
- ・冊子と同額
- ・無償(冊子購入代のみ)

図書(856冊:29万頁)

- ・冊子の2倍(冊子代+冊子代×2 = **冊子3冊分**)
- ・冊子と同額(冊子代+冊子代 = **冊子2冊分**)

学内著作物(論文、レポート) 3,801冊(21万頁) **総計 280万頁**  
 講義・講演ビデオ1,986件(490時間)

(平成18年9月現在)

<http://library.naist.jp/>

事例報告「本学の電子図書館業務について」

- 図書・雑誌の機関別許諾状況 (平成18年3月末現在)

機関種別	依頼 機関数	許諾 機関数	(内訳)		
			(教員仲介 による)	(無償)	
学協会	国内	37	27	9	19
	外国	15	0	0	0
商業出版社	国内	51	21	8	14
	外国	21	5	2	0
企業	国内	26	18	8	18
	外国	0	0	0	0
その他 機関	国内	4	3	0	3
	外国	0	0	0	0
合計	国内	118	69	25	54
	外国	36	5	2	0
	計	154	74	27	54

<http://library.naist.jp/>

事例報告「大学の電子図書館業務について」

- これまでの取り組み: 昨年度までの活動

許諾依頼に対して回答保留または拒否の主な理由

- 業界全体のコンセンサスが取れていない。または業界内で考え方が流動的であり結論が出せない。
- 販売部数が落ちる恐れがある。
- 著作権が集中していない。または著作権がない。投稿規定の見直しが必要。
- 電子ジャーナルの利用を推奨する。
- 有料利用に向けて料金徴収方法等を検討中。
- データの流出が心配である。

<http://library.naist.jp/>

事例報告「大学の電子図書館業務について」

- これまでの取り組み: 昨年度までの活動

(4) 近年における電子ジャーナルの急速な普及等の学術情報環境の急激な変化に対応するため、インターネットで利用できるものについては、これを積極的に活用し、本学独自の学外資料の電子化は、これ以上拡大せず、学内著作物の電子化、及び学内での講演・講義の映像資料のデジタル化の拡充と、その学外公開を進める方向に方針転換を図る。  
(平成14年度)



<http://library.naist.jp/>

事例報告「大学の電子図書館業務について」

- これまでの取り組み: 昨年度までの活動

(5) 学内限定という条件で電子化した資料について、学外への公開の可能性を、いくつかの許諾機関に打診。結果、東京大学出版会の図書について、今後新たに電子化するものも含め、生駒市の図書館北分館の特定端末から、北分館の利用者に公開することが東京大学出版会より許諾され、年度末より試験提供を開始。(平成14年度)

(6) 外国雑誌については、Elsevier Science 社に続き、Kluwer 社の雑誌についても電子ジャーナルの利用することとし、本学での電子化を中止。(平成15年度)

<http://library.naist.jp/>

事例報告「大学の電子図書館業務について」

- これまでの取り組み: 昨年度までの活動

(7) (平成16年度)  
授業アーカイブ構築事業として、学内で行われる講義を収録し、デジタル化して保存、公開する準備を開始。

(平成17年度)  
情報科学研究科の協力を得て試行を開始。



<http://library.naist.jp/>

事例報告「大学の電子図書館業務について」

- 現在の取り組み

(1) 既に許諾を得ている出版社等の図書、国内雑誌の電子化  
図書電子化の許諾を得ている出版社

- 東京大学出版会
- Oxford University Press
- ティーン・アイ・シー社

(2) 学内著作物及び講演・講義の件数拡充と学外公開の推進

- 学位論文
- テクニカルレポート
- 科学研究費補助金実績報告書及び研究成果報告書
- 講演・講義
- 授業アーカイブ

<http://library.naist.jp/>

事例報告「大学の電子図書館業務について」

- 現在の取り組み

**授業アーカイブ**

(目的)

- 大学の持つ最大の学術資源である「授業」のデータベース化
- 将来的には、学外公開を目指す(当面は、学内利用限定)

- 学生 授業の補完  
(復習や課題確認、秋入学の学生への対応、時間が重なった授業の履修)
- 教員 授業の改善、教育評価やFaculty Development (FD)

<http://library.naist.jp/>

事例報告「大学の電子図書館業務について」

- 現在の取り組み

**授業アーカイブ**

予算(平成17年度)高品質アーカイブにかかる経費

- 作業要員(TA)
  - (作業内容:授業のカメラ撮影、講義資料の収集、講義映像と資料との同期)
- 人件費(1期2科目=計8科目収録)×各授業2名 約278万円
- 博士単価 1,300円/時
- 対象授業撮影用ビデオカメラ DVカム2台 約100万円

予算(平成18年度)

- 人件費(1期2科目=計8科目収録)×各授業2名 約296万円
- 人件費の違いは授業回数による

<http://library.naist.jp/>

事例報告「大学の電子図書館業務について」

- 現在の取り組み

**授業アーカイブ問題点**

- 授業の著作権帰属について

授業の著作権は大学側？ 教員側？

教員に帰属するものと考え、平成18年度から著作権処理(承諾書)実施  
承諾書未提出によりアーカイブ不可が増加



<http://library.naist.jp/>

事例報告「大学の電子図書館業務について」

- 現在の取り組み

**授業アーカイブ問題点**

- 授業における第三者著作物の利用について

× 教育機関における複製等(著作権法第35条)  
? 引用(第32条)

第三十五条(学校その他の教育機関における複製等)  
…授業の過程における使用に供することを目的とする場合には、必要と認められる限度において、公表された著作物を複製することができる…

2…当該授業を直接受ける者に対して…当該授業が行われる場所以外において当該授業を間接に受ける者に対して…

第三十二条(引用)  
公表された著作物は、引用して利用することができる。この場合において、その引用は、公正な慣行に合致するものであり、かつ、報道、批評、研究その他の引用の目的の正当な範囲内で行なわれるものでなければならない。

<http://library.naist.jp/>

事例報告「大学の電子図書館業務について」

- 現在の取り組み

**授業アーカイブ問題点**

- バイオサイエンス研究科、物質創成科学研究科への拡張について  
両研究科の同意得られず 未実施

\*授業の一例\*

研究科	情報	バイオ	物質
授業名	アルゴリズム概論	現代生物学 I	有機化学 I
テキスト	特になし、講義ノートを配布。	エッセンシャル細胞生物学 第2版 (Albert et al., 中村, 松原監訳 南江堂)	ポルハルト・シェアー著 古賀憲司他監訳「現代有機化学」上巻; 第4版 化学同人

- その他  
半自動アーカイブの品質などの技術的課題

<http://library.naist.jp/>

事例報告「大学の電子図書館業務について」

- 現在の取り組み

**機関リポジトリの構築**

収録範囲(初期公開時)

学位論文	1,978	修士論文1,543 博士論文 435
科学研究費補助金報告書	236	
情報科学研究科テクニカルレポート	122	
講演ビデオ	195	
合計	2,531	

<http://library.naist.jp/>

事例報告「大学の電子図書館業務について」

- 現在の取り組み

**機関リポジトリの構築**

平成18年12月まで:システム調整

↓

平成19年1~12月:試験公開

↓

平成20年1月:本稼働

<http://library.naist.jp/>

事例報告「大学の電子図書館業務について」

- 現在の取り組み

**機関リポジトリの構築**

科研費報告書に関する今後の課題

- 公開承諾書と委任状の提出率向上を目指す  
 科研費は共同研究が多いのですべての執筆者の承諾書と委任状が必要  
 特に委任状の提出率が非常に低い 電子化できず 地道な督促
- 科研費成果報告書の電子データ提出  
 成果報告書は紙媒体で提出 冊子から電子化  
 今後は電子データ提出を依頼

<http://library.naist.jp/>

事例報告「大学の電子図書館業務について」

- 現在の取り組み

**機関リポジトリの構築**

科研費報告書に関する今後の課題

- 雑誌掲載論文の抜刷転載  
 雑誌掲載論文の電子化には各出版社と著者の権利譲渡内容を要調査  
 現在は「雑誌掲載論文抜刷部分は電子化せず」  
 代替手段として、Digital Object Identifier(デジタルオブジェクト識別子:DOI)  
 をもつ場合は目録に記入

目次

1. 論文の目次

2. 論文の目次

3. 論文の目次

書誌

- タイトル A Membrane-Anchored Protein Kinase Involves
- 著者名 K-shij Morase, Hiroshi Ohta, Megumi Iwano,
- キーワード EE
- URL <http://dx.doi.org/10.1126/science.1093586>
- 参照 Science 5 March 2004 303 1516-1519

<http://library.naist.jp/>

事例報告「大学の電子図書館業務について」

- 現在の取り組み

**機関リポジトリの構築**

学術雑誌論文の収録

リポジトリ搭載目的ならば収録可能な場合も...

- 著者版最終稿のみ可
- 出版社版のみ可
- AIP(American Institute of Physics アメリカ物理学協会)
- APS(American Physical Society アメリカ物理学学会)
- IEEE(アメリカ電気電子学会) など

著者の許諾をとって収集 電子化

<http://library.naist.jp/>

事例報告「大学の電子図書館業務について」

**機関リポジトリの構築**

Journal **Physical review letters** (ISSN: 0031-9007)  
 Publisher: **AMERICAN PHYSICAL SOCIETY**

These summaries are for the publishers default policies and changes or exceptions can often be negotiated by authors. All information is correct to the best of our knowledge but should not be relied upon for legal advice.

Publisher: **American Physical Society**

Pre-print:  author can archive pre-print (ie pre-refereeing)

Post-print:  author can archive post-print (ie final draft post-refereeing)

Conditions:

- Link to publisher version required
- Copyright notice required
- Publisher's version/PDF can be used on author's or employers web site, but not "on e-print servers"

Mandated OA: (Awaiting information)

Paid access: **Free to Read**

Copyright: **Open Access (CC BY)**

RoMEO: This is a RoMEO **green** publisher

Update: **support update for this record**

著者は自分自身または所属機関のサイトに出版社版をアーカイブ可能。  
 出典の明記とEJへのリンクが条件。

<http://www.sherpa.ac.uk/romeo.php>

<http://library.naist.jp/>

事例報告「大学の電子図書館業務について」

**学位論文の電子化**

承諾書は学位審査請求時などに研究科事務室が回収

研究科/課程別の公開条件

情報	修士	博士	認証	審査後すぐ
情報	なし	なし	なし	審査後すぐ
博士	なし	なし	なし	審査後すぐ
バイオ	修士	あり	あり	承諾書の条件による
博士	なし	なし	なし	審査1年後
物質	修士	あり	あり	承諾書の条件による
博士	なし	なし	なし	承諾書の条件による

<http://library.naist.jp/>

事例報告「大学の電子図書館業務について」

**学位論文の電子化**

承諾書は学位審査請求時などに研究科事務室が回収

「PDF版本文」「承諾書」

収集の不一致

<http://library.naist.jp/>



• 学位論文の電子化

	学位論文										デジタル リポジトリ	科研 費成 果報 告書	合計
	修士論文			博士論文			計						
	情報	バイオ	物質	情報	バイオ	物質	情報	バイオ	物質	計			
8年度	10	0	0	2	0	0	12	0	0	12	0	0	12
9年度	104	66	0	0	0	0	104	66	0	170	4	0	174
10年度	271	29	0	0	0	0	271	29	0	300	15	0	315
11年度	232	88	0	26	3	0	258	91	0	349	30	0	379
12年度	128	158	17	20	14	0	148	172	17	337	7	0	344
13年度	134	130	28	29	24	0	163	154	28	345	16	0	361
14年度	121	79	92	28	25	0	149	104	92	345	13	14	372
15年度	120	149	84	22	26	0	142	175	84	401	16	1	418
16年度	149	92	83	29	30	13	178	122	96	396	10	26	432
17年度	141	93	51	36	17	10	177	110	61	348	5	10	363
18年度	135	112	85	41	27	12	176	139	97	412	10	207	629
総合計	1,545	996	440	233	166	35	1778	1162	475	3415	126	258	3789

<http://library.naist.jp/>



今後の課題

学内合意：「大学」としての取り組みに

- ・授業アーカイブ
- ・学位論文 → 集まり方が中途半端
- ・科学研究費補助金

技術やサービス：電子図書館の生き残り？

- ・何をに入れていくか？ → 出版業界等の動向、気にしつつ…
- ・どんなサービスをしていくのか？ (電子化、発信は独自が当たり前)

著作権法

- ・ビデオ資料における第三者著作物の「引用」 → 新しいメディアへの「法的対応

・リポジトリ、科学研究費補助金報告書における学術雑誌論文

- 雑誌掲載論文の転載

<http://library.naist.jp/>